

第47回国際原子力機関（IAEA）総会出席及び要人会談について

平成 15 年 9 月 22 日

内閣府原子力担当

細田科学技術政策担当大臣が、9月15日（月）からオーストリア共和国ウィーンで開催された、第47回国際原子力機関（IAEA）総会に政府代表として出席し、政府代表演説を行い、また同日、フランス、韓国、米国及びロシアの代表並びに IAEA 事務局長と個別会談を行った。なお、藤家原子力委員長は総会出席後ベルギーを訪問し、E C の原子力関係者との意見交換を行った。概要は以下のとおり。

1. IAEA 総会

出席者

（政府代表）

細田博之 科学技術政策担当大臣

高須幸雄 在ウィーン国際機関日本政府代表部 特命全権大使

（政府代表代理）

天野之弥 外務省軍備管理科学審議官

永松荘一 内閣府大臣官房審議官

小田公彦 文部科学省原子力安全監

中村 進 経済産業省原子力安全・保安院首席統括安全審査官

（代表顧問）

藤家洋一 原子力委員会委員長

東 邦夫 原子力安全委員会委員

（代表随員）

藤嶋信夫 内閣府政策統括官付参事官（原子力担当）

篠原 守 外務省科学原子力課長

佐藤真輔 文部科学省研究開発局企画官

仲嶺信英 原子力安全委員会事務局審査指針課長

岡谷重雄 経済産業省資源エネルギー庁原子力政策課国際企画官

結果概要

(1) 政府代表演説（骨子）

- ・ 北朝鮮について、すべての核兵器、核開発計画の速やかな破棄を求めるとともに、6 者会合プロセスを継続することが不可欠であることを強く主張
- ・ イランに対して、9 月 12 日に採択された理事会決議で要求されている、「IAEA が核物質の転用がないことを検証できるよう、イランが本年 10 月末までに、問題点を是正し、IAEA と協力すること」など、あらゆる措置を即座にとることを強く要請
- ・ わが国は、地球温暖化防止等に寄与する原子力の開発利用に積極的に取り組むこと、ITER 計画の推進に貢献していくこと、IAEA の活動を引き続き支援していくことなどを表明

ロシアに続き 2 番目に演説を行った。

(2) 要人会談

フランス ビュガ原子力庁長官との会談

（9 月 15 日（月） 8 時 00 分～8 時 45 分：グランドホテル）

- ・ ITER について、ビュガ長官は、年内にサイトを決定し、早急に建設することが大切との認識を示した。
- ・ 2008 年で仏の高速炉「フェニックス」の運転が終了するため、「もんじゅ」の重要性が高まるとの認識が示された。

韓国 パク科学技術部大臣との会談

（9 月 15 日（月） 10 時 20 分～10 時 45 分：総会会場内）

- ・ 朴大臣から、北朝鮮の核開発問題についての我が国の協力に感謝の表明。平和的手段で解決すべきとの点で意見が一致。
- ・ ITER の日本誘致への支持を要請。
- ・ アジア地域の原子力協力は重要ということで意見が一致。朴大臣より、次回 FNCA（アジア原子力協力フォーラム：12 月に沖縄で開催予定）に参加の方向で考えたいとの表明。
- ・ わが方から、追加議定書の早期批准を要請したことに対し、朴大臣から、早急に批准見通しである旨の表明がなされた。

米国 エイブラハム エネルギー省長官との会談

(9月15日(月) 12時00分～12時30分：総会会場内)

- ・ 北朝鮮の問題については、六者協議により平和的解決を求めることで意見が一致。
- ・ 核能力を持った上でNPTを脱退するパターンが定着することは困る旨表明があった。
- ・ 核物質の検知能力の向上に関して、今後とも協力していくことで合意。
- ・ 解体核支援について、我が国提案のバイバックオプションを含めて評価が行われているとの説明があった。
- ・ 原子力を利用した水素製造、水素利用の国際的な標準化等に係る国際的な協力が重要との認識で合意。

ロシア ルミャンツェフ原子力大臣との会談

(9月15日(月) 15時10分～15時50分：総会会場内)

- ・ 細田大臣よりルミャンツェフ大臣の日本への招待について提案し、ルミャンツェフ大臣は招待を受けた。
- ・ ITERの日本誘致への支持を要請。日本の原子力の技術を高く評価する旨述べた。
- ・ 原潜解体に係る日口の協力協定が締結されたことを評価。

エルバラダイ IAEA 事務局長との会談

(9月15日(月) 16時00分～16時30分：事務局長室)

- ・ イランの問題には大変頭を痛めていると述べた。日本の役割にも期待するとの表明があった。
- ・ 「もんじゅ」の問題、ITERの誘致の問題等あり、できるだけ早く来日して欲しいと述べた。
- ・ 北朝鮮については、平和的解決が重要である。六者協議での一定の進展があった後に、IAEAの果たすべき役割があるとの考えが示された。
- ・ 邦人職員アンダーのプレゼンテーションの解消が急務と要請した。

また、15(月)に細田大臣が主催し、各国代表との昼食懇談会を行った。招待者は、エルバラダイ IAEA 事務局長のほか米国、ロシア、フランス、英国、ドイツ、中国、豪州、カナダの代表者

2. 藤家原子力委員長のベルギー訪問

シェンケル ECジョイントリサーチセンター次長との会談

- ・ シェンケル次長より、第4世代原子力システムに関する国際フォーラム（GIF）に欧州原子力共同体（ユーラトム）が参加する旨表明があった。
- ・ 藤家委員長より「もんじゅ」の国際的な重要性について説明。ウラン資源も有限であるところ、未来のエネルギー確保には核燃料サイクルが必要であり、国際的議論が必要である旨指摘した。
- ・ 藤家委員長より、国際標準となりうる技術をわが国から発信するためにも ITER を是非誘致したい旨述べた。